

『情報社会学概論』の出版について Publication of "An Introduction to Infocionomics"

大橋 正和 (Masakazu Ohashi)
情報社会学会副会長・中央大学総合政策学部教授

公文会長および学会員を中心として執筆された『情報社会学概論』(2011年1月)がNTT出版から公刊された。2004年に刊行された公文会長の著作『情報社会学序説』(NTT出版)に続く「情報社会・学」の著作である。

情報社会とはどんな社会なのか?情報社会を「近代社会の進化」の中で位置づけるとともに、情報社会を捉える学問的枠組みとしてどのようなものが考えられるのか? 情報社会になって初めて生まれた科学の革命的発展(「大文字の科学革命」「設計科学の台頭」(吉田)、コンピュータによるシミュレーションや可視化(マンデルブロ、ウォルフラム)、ブラックスワン現象=非・正規分布型事象の重要性)などのテーマを取り上げて具体的に考察している。学会員ばかりでなく幅広い読者に情報社会・学の様々なアプローチを提供している。是非一読を願いたい。

【内容】

●序

情報社会学への招待 公文俊平(多摩大学情報社会学研究所長・情報社会学会会長)

情報社会学の基本的な考え方とこの本の構成について述べている。

●第1部

情報社会学の基礎

- ・第1章 情報社会の科学革命—吉田民人の「大文字の第2次科学革命」論の紹介 公文俊平
- ・第2章 事物の分布についての新しい見方—特にベキ分布について 飛田武幸(名古屋大学名誉教授)、Si Si(愛知県立大学情報科学部)

第1部では情報社会学の基礎としての進化学論的アプローチと統計学的アプローチについて記述されている。

●第2部

情報社会学のさまざまな方法

- ・第3章 経済物理学—複雑さに挑む科学から情報社会へのアプローチ 高安秀樹(ソニーコンピュータサイエンス研究所・明治大学)
- ・第4章 情報社会と世界システム—近代化の定位 山内康英(多摩大学情報社会学研究所)
- ・第5章 社会実験とシミュレーション手法 服部正太(構造計画研究所)
- ・第6章 インターネット—情報社会のインフラストラクチャー 村井純(慶應義塾大学環境情報学部)

第2部では、情報謝意を研究していく上での多様なアプローチを4つの章でまとめている。「経済物理学」、近代社会の発展過程への「進化論的アプローチ」、モデル化による「シミュレーション手法」、情報社会のインフラストラクチャーとしての「インターネット」について著されている。

●第3部

情報社会の情報基盤

- ・第7章 創発のプラットフォーム 國領二郎(慶應義塾大学総合政策学部長)
- ・第8章 ソーシャルメディア—情報社会の情報プラットフォーム 佐々木俊尚(ITジャーナリスト)

第3部では、情報社会の「プラットフォームについて、協働の社会的推進装置としての役割と、その上で提供されるサービスとしての「ソーシャルメディア」について記述されている。